

「よくやったな。」

小学校の卒業式。先生からこう言われた瞬間、私は涙を堪えることができませんでした。六年生になり、学級が変わっても、ずっと私を見守り続け、応援してくれた先生。私はこんな先生になりたいと強く思ったのでした。

私は小学生の頃から、委員会などのリーダーを積極的にやっています。でも、正直なところ、初めは、リーダーになって誰よりも目立ちたいという考えしかありませんでした。五年生の一学期。今回も学級委員に立候補し、人気者になれると浮かれていた日のことです。

「リーダーってそんな感じなのかな？」先生は私に淡々と言いました。なぜ、先生にこんなことを言われなければならないのか、私には理解できませんでした。確かに私は目立ちたがり屋ですが、リーダーとしての自負もあったからです。そして、誰かに注意されたり、自分の考えを否定されることが大嫌いな私は、決して反省などしませんでした。そればかりか、格好良く運動神経抜群な先生への対抗心から、先生に謝ることもできず、当然、それからは怒られ続けたのでした。ある時、怒られたくない一心で、とりあえず、給食の配膳の声掛けをしてみました。今度は「もっと周りを見なさい。」と怒られるのでした。何をやっても怒られることに、とにかく腹が立ってしかたがありませんでした。

夏休みが明けた九月。相変わらず、私は先生に反発していました。そんな時のことです。

「あのな、博勝。俺は博勝に変わってほしいと思っているんだ。このままで良いのか？」私の目を真っすぐ見て話す先生はいつもと違い、鬼気迫る姿が怖かったのを覚えています。ですが、私もいつもと違い、不思議と先生の話を中心に素直に聞くことができたのです。これまで先生に怒られたことを思い出していました。当時、目立ちたがり屋の私は、リーダーとしての自覚もなければ、責任など考えたことは一度もないのに、プライドだけは人一倍ありました。先生はそんな私の考えをすぐに見透かし、リーダーとして大切なことを気付かせようとしていたのではないかと。怒っていたわけではない。あれは私への優しさだったのだ。私がようやくその事実気づいた時には、学級委員になってから既に四ヶ月も経っていました。怒られたと思い、逆恨みしていた自分をとても恥ずかしく思いました。

そして、その後は、自分はリーダーとして学級のために何をすべきなのかを一番に考えました。先生はよく「行動より考動。ただ動くのではなく、目的を持って、自ら考えて動きなさい。」とおっしゃっていました。私は周りをよく見て、重要なことはメモをし、改善するために先生に相談しました。すると、私の声掛けでみんながすぐに動いてくれたり、友達と一緒に声掛けをしてくれたり、何となく学級にまとまりが生まれてきたような感じがしました。そして、その年の長縄大会では学校最高記録を出し、みんなで大喜びしたことは今でも忘れられません。目立ったり、注目されるのではなく、周りを見て、人の役に立つリーダーとしての心構えがこのときできたといっても過言ではありません。

これまで出会った先生方は私にとって、魅力的な人たちばかりです。授業が分かりやすく、どんな質問にも答えてくれる、そして面白い。尊敬できるところを挙げたらキリがありません。しかし、現在の日本の教育は先生の長時間労働、教員のなり手不足など、たくさんの課題を抱えていると言われていています。日本でブラック企業が増えているのは、人を教える教育環境自体がブラックだからではないでしょうか。私自身、働きにくい環境は嫌いです。でも、もう、あの時の私とは違います。私はどんな状況でも、目的を持って自ら動いて、一人一人に寄り添える先生になりたいのです。そして、より良い教育環境をつくりたいのです。『子供も先生も誰も苦しまない教育を。』それが私の夢であり、願いなのです。